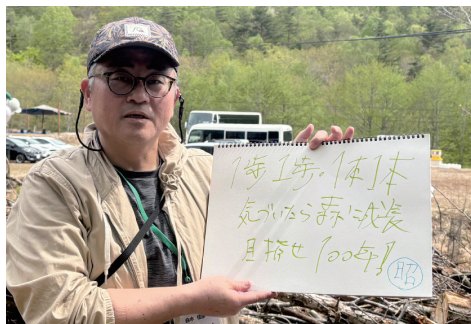
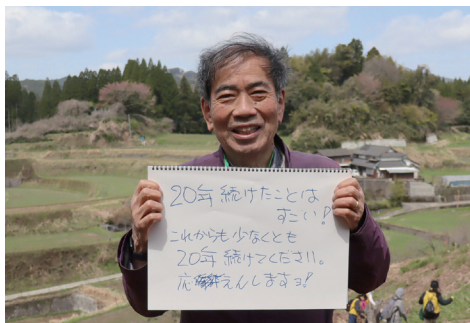
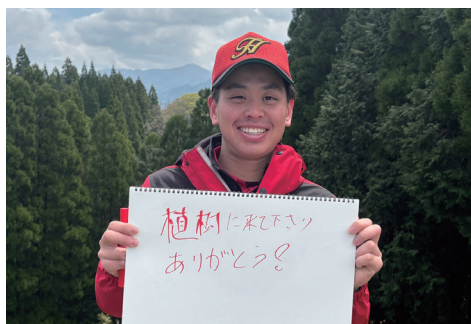


Present Tree.®

— おかげさまで 20 周年 —





20周年を迎えて、改めての決意

100年後の森を 美しいまま引き継ぐために

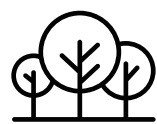
プレゼントツリーの【目指す未来への取り組み】

①森林管理体制の進化



新たな森の管理体制の構築

②返還後の森の活用法



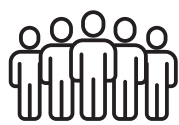
次の10年の森の活用方法確立

③林政絶滅エリア挺入れ



新たな森林再生手法の考案

④里親43万人の有効活用



地方創生セクターとの協働連携

⑤47都道府県での展開



全国カバーし①～④を推進

認定 NPO 法人環境リレーションズ研究所
理事長 鈴木敦子



プレゼントツリー20周年に際しましては、格別の御
祝意ならびにご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。
皆様より寄せられた温かいお言葉は、私どもにとりま
して何よりの励みとなっております。

2005年に「人生の記念日に樹を植えよう」と
呼びかけて始動して以来、お陰様で、全国60力所の森
林整備協定（契約）林において、43万本を超える記念
樹が、多くの方々を支えられながらスクスクと育っ
ています。

協定期間満了までの10年間、都市に暮らす人々が里
親となり、地元の方々と協力して森を育てる仕組みと
して立ち上げた2000年代初頭は、再造林未済地が
深刻化し、日本の木材自給率が史上最低水準にあった
時代でした。森と人との新しい関係をつくるこの挑戦
は、20年の歳月を経て、里親の皆様と共に育ててきた
苗木が、各地で立派な森の一面を形成しつつあり、長
期視点に立った関わりを力に雄弁に物語っています。

近年、林野行政においても、「生物多様性を高める
ための林業経営」や「里山広葉樹林の再生」が、漸く
本格的に議論され始めました。20年前、広葉樹造林や
里山再生を訴えても、なかなか取り上げられなかった
時代を思うと、隔世の感を覚えると同時に、ようやく
社会の側がこの課題と向き合う局面に入ったのだと、
身の引き締まる思いです。

しかし、制度や方針が整いつつある一方で、現場を
取り巻く状況は決して楽観できるものではありません。
経済林としての成立を断念せざるを得ない森林が
増加する中で、それを引き受け、継続的に管理してい
く体制は、全国的に弱体化、あるいは不在の状態に
あります。森林を「所有する」ことと、「守り続ける」
ことが、乖離し始めています。

また、協定期間満了を迎え、良好な森へと育った場所が
各地で生まれる一方で、その後の10年をどう活か
し、どう地域に根づかせていくのかという問いには、まだ
十分な答えを持っていません。育てた森を次の世代へ
引き継ぐための、新たな活用フェーズの確立が求めら
れています。

さらに、林業の衰退とともに、林業家や林政窓口そ
のものが姿を消した、いわば「林政絶滅エリア」が出
始めています。人の手が入らなくなった里山は、獣害
や斜面崩壊のリスクを高め、結果として砂防工事が繰
り返され、景観や地域の魅力も失われていきます。こ
うした森は、ますます支援者を募りにくい存在となり、
負の連鎖に陥っています。

一方で、プレゼントツリーをこれまで育んできた里
親の皆様は、全国でのべ43万人にのぼります。この大
きな「関係人口」としての力を、森づくりやツアー参
加にとどめることなく、地域づくり全体へどう活か
していくのか。地方創生を担う多様なセクターとの協
働が、今後の鍵となります。

現在、プレゼントツリーは14都道府県で展開していま
すが、100年先の森を見据えるならば、全国へと視
野を広げ、これらの課題一つひとつに向き合っていく
必要があります。長く続けてきたお陰様で、「この地
域の森の里親になりたい」「自社の休眠山林で、新た
な森づくりを始めたい」といったお申入れを頂く機会
も増えてきました。

そうしたお声を力に変えながら、森と地域を支える
新しい仕組みを育ててまいりたく、100年後、日本
中の森が笑っていられる未来のために、引き続き、皆
様と共に歩み続けられますよう、心よりお願い申し上
げます。



20 年のご支援・ご協力に感謝！
プレゼントツリーは 100 年後を見据えて、
たくさんのパートナーと共に活動を加速していきます



7/11
「Present Tree 20th
サミット in TOKYO」
@ 大手町 Ohana Floor
58 社 87 名参加



プレゼントツリー 20年のあゆみ

「たくさんの人達の興味と足が森に戻る、集まる仕組み」
として、プレゼントツリーの挑戦はスタートしました。



2025 年 12 月までの累計実績

協定林数：国内 **60** 力所

里親受入本数：**432,582** 本

企業里親数：**555** 社

個人里親数：**1,695** 名

2025 20th!
to be continued...

2024

植樹本数
40 万本を
突破

2025

「Present Tree in
能登金蔵」スタート

2024

「Present Tree for
湘南国際村 めぐりの森II」
スタート

2023.10

環境省「自然共生サイト」に
「Present Tree in くまもと山都」
が認定を受ける

2022.6

「森林 × 脱炭素チャレンジ
2022」林野庁長官賞 受賞

2021

「Present Tree in
TOKYO」スタート

TOKYO

2020

「Present Tree in くまもと山都」
「Present Tree in 笛吹芦川」スタート

2018

「Present Tree in
中川」スタート

2017.6

「Present Tree in 笛吹みさか」が
笛吹市ふるさと納税 返礼品に採用

2016.12

環境省グッドライフ アワード 2015
実行委員会特別賞 受賞

2015.6

プレゼントツリー姉妹プロジェクト
「URBAN SEED BANK」立上げ

2015

PT 10 周年！
イベント開催

2013.2

TOKYO EARTH WORKERS
優秀賞 受賞

2010.6

ジャパンロマンスアワード
(ロマンスサービス部門) 受賞

2008.12

平成 20 年度
地球温暖化防止活動環境大臣表彰
対策活動実践部門受賞

2007.5

「音楽の力で森をつくろう
Present Tree Live 2007」開催

2006

「Present Tree in 北海道」
スタート

2005.1
START!!

2011

REVIVE JAPAN プロジェクト 始動
「Present Tree in 飛騨高山」スタート

2012

植樹本数
11 万本を
突破

2014

「Present Tree in
みやぎ大崎」スタート

2019

植樹本数
20 万本を
突破

植樹本数の推移

※毎年 1 月～ 12 月合計

植えてから14年、飛騨高山の森。

プレゼントツリーは20年の歴史の中で、多くの森を育んできました。
2011年から植樹が始まった「Present Tree in 飛騨高山」は、
14年経った今、若木に覆われた美しい森になっています。
2024年には新たな協定がスタートし、
すぐ近くのエリアで里親を募集しています。
一緒に高山の森を育てませんか。

after (2025)



before (2011)

「PT 飛騨高山」管理者の小林三之助商店・
中谷社長がコラムを寄せてくれました！

植栽地の現場から vol.1

木を植え、育てて活用する
未来へつなぐ林業の在り方

PT 飛騨高山 管理者

株式会社小林三之助商店
中谷 哲成 社長

株式会社小林三之助商店 8代目 代表取締役社長。岐阜県高山市出身。
「PT 飛騨高山」では、地元・高山市との協定締結からイベント開催まで
と尽力いただきました。いつも本当にお世話になっています！



▲「PT 飛騨高山」第2エリア



▲国産材の枕木原木の土場



▲小林三之助商店自社工場の集成材生産ライン

私たち小林三之助商店は、明治41年に創業した岐阜県岐阜市に本社を構える木材総合メーカーです。広葉樹製品を中心に取り扱っており、鉄道用の枕木が35%を占めます。枕木はコンクリート製が主流ではありますが、交換・加工のしやすさや、災害復旧への備えとして木の枕木には根強い需要があります。

「PT 飛騨高山」の現場にもなっている高山市清見町栗野侯地区の社有林では、クリやブナ、ナラなどの広葉樹の造林を行なっています。こうした固い広葉樹は、枕木に最適なんです。そのほか、地域の産業である飛騨家具の材料としても、広葉樹材を卸しています。高山市内には飛騨家具のショールームが複数あり、弊社の木材もその一部で使われていますので、ぜひ高山を訪れた際にはご覧になってみてください。プレゼントツリーの里親の皆様にご寄付いただいた樹も、70年後には家具になるかもしれません。

広葉樹は針葉樹に比べて成長が遅く、供給・流通体制が充分整っていないこともあって、国内で流通する広葉樹材のうち国産材は1割程度に留まり、残りは輸入材です。もっと国産材を使っていたらけるように、生産量を増やすべく、私たちは岐阜の社有林にて、継続的かつ積極的な植樹と、その後の育林活動を続けております。やはり原料をしっかり確保するということは大切ですので、社有林を

増やすべく東北や北海道で広葉樹造林に適した山を探しています。日本の先人たちが連綿と維持してきた貴重な森林資源を今後も持続可能にしていけるために、樹を植えて森を育て、森から生産した木材で製品をつくる——という木の事業を、今後も続けていきたいと考えています。

木材は、枕木や家具として使える部分は割合としてはわずかです。それ以外の部分は、紙やティッシュなどの原料である紙パルプになったり、バイオマス燃料になったり：最近では製紙会社さんが開発したセルロースナノファイバーという、軽さ・強度に優れた木材由来の次世代素材の活用を、当社の幅広いお客様や協力業者様と一緒に進めており、一例としてはプラスチックに混ぜることで環境負荷の小さい原材料として提案しています。

今、林業の衰退が叫ばれています。確かに、今現在の仕事はあるけれど、このまま何もしないでいたら木材自体が今後どんどんギリ貧になっていくでしょう。多様化するニーズに応える木材の利用方法を考え、試していくことが、私たちの使命だと思っています。プレゼントツリーの里親の皆様には、森を守り育てるお手伝いをいただき感謝申し上げます。ともに、ぜひこれからの国産広葉樹材の利用について、一緒に考えていただけたら嬉しいです。



詳細はこちら▶



「PT 飛騨高山」植栽地 DATA

目的：森林再生啓発・水源涵養林の育成

協定期間：

第1エリア…2011/2/28～2021/3/31

第2エリア…2024/8/29～2044/8/28

所在地：岐阜県高山市清見町栗野侯

管理者：株式会社小林三之助商店

地積：第1エリア…45ha 第2エリア…9ha

樹種：ミズナラ、ケヤキ、ブナ、ヤマザクラ、ヤマグリ

里親数：約4万人（延べ人数）



4/19 日清製粉グループ 様



4/21 株式会社ミナシア 様



4/26 シュローダー・インベストメント・マネジメント様



5/10 明治安田生命保険相互会社 様



5/20 株式会社ブロードリーフ 様

企業さまの植樹活動

2025年もたくさんの企業さまに、

全国の植栽地を訪れていただきました！

※一部、会社名を省略させていただいております。



5/20 新生紙パルプ商事株式会社 様



6/1 三機工業株式会社 様（甲斐）



6/2 日本コンセントリクス株式会社 様



6/7 プライムプラネットエナジー&ソリューションズ 様



6/8 NTTドコモビジネス株式会社 様



6/13 AXSEED 株式会社 様



9/27 三機工業株式会社 様（くまもと山都）



10/17 オリックス銀行株式会社 様



10/30 関電不動産開発株式会社 様

10/4
9社14名
参加

「PT 能登金蔵」企業向けモニターツアー開催！

能登の現状を視察し、金蔵の方々との交流を深める日帰りツアー。
今後の企業支援やイベント実施につながる有意義なツアーとなりました。

2 南志見市場

奥田さん



奥能登の復興に携わる奥田さんから、災害時の状況や復興の進みについてお話。

1 能登空港



車窓からは災害の爪痕がそこに見られました。



能登空港からバス乗車。羽田から能登空港までは約1時間と、意外と近いんです！

3 白米千枚田



1000枚の棚田のうち250枚の作付けが始まった千枚田。隣の道の駅では地元物産の買い物もできます。

4 「PT 能登金蔵」で植樹！



奥能登の地元植生の広葉樹であるクヌギ・コナラ100本を植えました。石川県山林協会の坂口さんが指導してくれます。

坂口さん



6 地元の方との交流

金蔵寺にて、地元を盛り上げようと様々な取り組みを行っている石崎さん・井ノ池さんと交流会。今回の視察を経ての感想も参加者の皆様からいただき、温かい交流が行われました。

石崎さん



井ノ池さん

5 里山の生物の話



野村先生

いしかわ自然学校インストラクター・野村先生をお呼びして、能登の生物についてのお話とピオトープ予定地を見学。「PT 能登金蔵」は自然共生サイトへの認定を目指して活動していきます。

ご参加ありがとうございました！
2026年是一般向けイベントも企画予定です。
復興の森づくりへのご支援、お待ちしております！



◀「PT 能登金蔵」詳細はこちらから



石川県奥能登農林総合事務所にて行なわれた「Present Tree in 能登金蔵」協定式の様子。左から、プレゼントツリーの誘致にご尽力くださった石川県山林協会 坂口専務理事、土地所有者である金蔵共有山林管理会 井池会長、理事長 鈴木、施業を担当くださる石川県森林整備協同組合 水上理事長、奥能登農林総合事務所 葛城所長。

能登に賑わいを取り戻す、復興の森づくり 「Present Tree in 能登金蔵」スタートしました！



金蔵共有山林管理会 会長の井池さん（左）。金蔵生まれ金蔵育ちで、金蔵集落の昔話から今の暮らしまで、いろんなことを教えてください。ぜひ金蔵を訪れてお話を聞いてほしい！

5月23日、プレゼントツリー国内60カ所の協定林「Present Tree in 能登金蔵」が誕生しました！2024年1月の能登地震同年9月の水害と、度重なる自然災害で大きな打撃を受けた能登地方。今回の植栽地である石川県輪島市町野町金蔵地区は、ただでさえ過疎化が進んでいた中、一連の災害は人口流出に拍車をかけ、世帯数は震災前の半数にまで落ち込んでしまっています。そんな金蔵地区で、プレゼントツリーの力に大きな期待を寄せてくださっているのが、地区会長の井池さん。「今まで荒れ放題だった山を、森林組合やたくさんの方々の協力を得て、10年間山の世話をしていただけたというのはとてもありがたい。集落の者としては、荒れた山を見るのは辛かったですから」と話します。井池さんは、植栽地を所有する金蔵共有山林管理会の会長でもあります。

募集が始まると、すぐに個人の方からの寄付が続々と集まりました。「能登のために何かしたい」という思いが形になったのです。続いて、「能登の復興を支援したい」という企業からの問合せが増え、それぞれの本業とどうコラボレーションしていくか、具体的な話が進んでいます。10月4日には、支援企業や支援予定企業の担当者の皆さまとともに金蔵を訪れ、能登の現状や植栽地での植樹体験を行いました。詳細は左ページをご覧ください！

協定の当事者は、地権者のほか森林整備を担う石川県森林整備協同組合、地元行政からは石川県奥能登農林総合事務所、そして立会人として石川県山林協会が入った万全の体制。協定式当日は新聞やテレビなどの地元メディアが駆けつけ、復興の森づくりがスタートしたことを各媒体で報道いただきました。プレゼントツリーに対する地元の期待をひしひしと感じ、身が引き締まりました。



金蔵地区の現在の様子。手前に広がっているのは美しい野原…ではなく棚田の跡地です。地震のため池が機能なくなり、2年間耕作できていません。

自社の所有地を“みどりのダム”に！ 関電不動産開発「くろよんの森」が始動

分譲マンション「シエリア」または分譲戸建て住宅「シエリアガーデン」ご契約1件につき
苗木1本を植樹する「シエリアツリープロジェクト」を、社有地で展開へ



社有地で行う、持続可能な森づくり

立山黒部アルペンルートの入口に位置する、長野県大町市。ここは、昭和30年代に関西電力が建設した「くろよん」と黒部ダムへ通じる長野県側にあたります。ダム開発から60年余、未活用のままになっている大町市の所有地で森づくりを行いたい——昨年、関電不動産開発様より、プレゼントツリー事務局へそんな依頼をいただきました。

まず取り組んだのは「シエリアツリープロジェクト」。分譲マンション「シエリア」または分譲戸建て住宅「シエリアガーデン」のご契約1件につき、プレゼントツリーを通じて苗木1本を植樹するというもので、「ロ」飛騨高山」に植えていただきました。その間、関係各所と調整を重ね、今年5月には地元行政である大町市の立ち合いのもと、関電不動産開発・北アルプス森林組合・環境リレーショーンズ研究所による森林整備協定を締結。苗木を自社の所有地に植える「関電不動産開発くろよんの森」プロジェクトがスタートを切りました。整備対象となるのは50ヘクタールで、まずは日向山入口付近の1ヘクタールの整備から着手し、地元植生の樹種を1ヘクタールあたり2〜3000本を植えていく計画です。

キックオフ植樹イベントを開催

そして10月30日には、キックオフとなる植樹イベントが開催され、新入社員を

含む15名にご参加いただきました。秋晴れのお天気にも恵まれ、和気あいあいとした雰囲気の中、100本の苗木はあっという間に植えられていきました。「ゆくゆくは分譲マンションや戸建てをご契約いただいたお客様を招いての植樹イベントも行いたい」と、経営管理本部の山野さん。「くろよんの森」から車で5分ほどの場所には関電不動産開発が所有しているホテルもあるので、植樹体験を楽しんで1泊し、翌日は黒部ダム観光：なんてプランも良いですよね！

持続可能な「みどりのダム」
自然共生サイト申請も視野に

「この『くろよんの森』は、持続可能な企業として進んでいくための象徴的な場所だと考えています」と山野さんは話します。植樹はもちろん、育樹などの森の手入れや整備、生物多様性保全を目指し「自然共生サイト」への申請も視野に入れた生き物調査など、様々な角度から「森づくり」に社員やお客様も巻き込んでいくことで、関電不動産開発という企業の「ファン」をつくる——森づくりを通じて企業ロイヤリティ向上に向けた取り組みとして、新たな挑戦をはじめた関電不動産開発様。戦後復興の象徴であった黒部ダム、そのふもとで「くろよんの森」は持続可能な社会に向けて、企業だけでなくお客様も巻き込んで地域を豊かにしていく、まさに現代を象徴する「みどりのダム」となるでしょう。



今、企業の間でじわじわ浸透中！

祝花の代わりに

植樹に寄付を

よびかける！



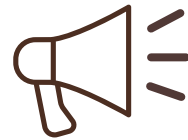
Present
Tree®

お祝いがの気持ちが
地球へのプレゼントになる



贈る側も贈られる側も、ともに森林再
生活動に貢献できます。

サステナビリティへの
取り組みを PR



社内外に自社の取り組みを発信する絶
好のチャンス！リリースや SNS 等
でもぜひ発信を。

ステークホルダーを
たくさん巻き込める



1本の寄付でも、多くの力で森をつ
くることができます。集まった樹を
植えるイベントも開催可能。



お客様はもちろん、
投資家や株主へも
良いアピールになりそう

樹を植えに行けるんだ…！
みんなで行ったら絶対楽しいな♪



■祝花寄付実施までの流れ

①お打ち合わせ

お客様の要望と開始時期、植栽
地の選定についてヒアリング。

②専用ページの制作

プレゼントツリー公式サイト内に
貴社専用の寄付申込ページを作成
（有料）。掲載する文言、金額や募
集開始日なども調整します。

③寄付の呼びかけ（貴社）

貴社公式サイトをはじめプレスリ
リース、営業ご担当者様からのご
案内等、ステークホルダーの皆様
へ、ぜひ幅広く告知をお願いいた
します。

④受付開始！

お祝いのご寄付いただいた企業様
には、自動返信にてお礼メールを
送付します。企業様の申込状況
については、寄付申込ページに付
随するマイページよりごダウ
ンロードが可能。



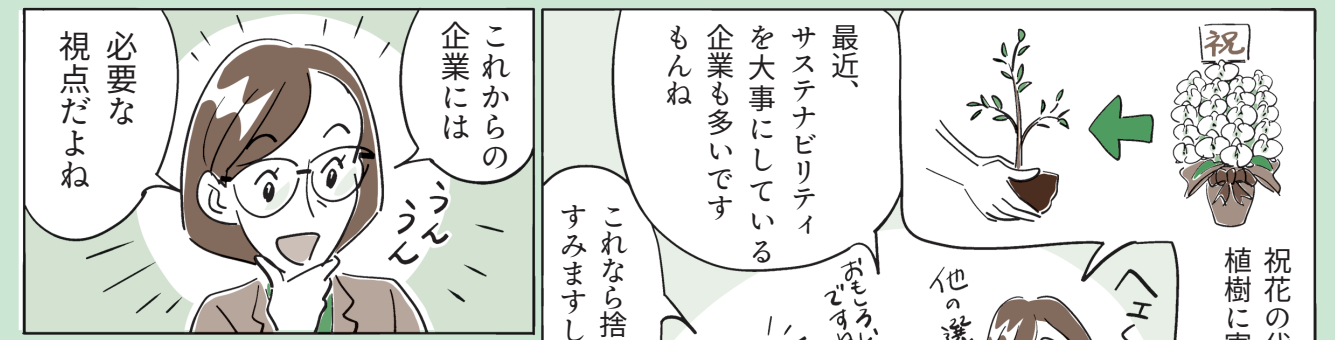
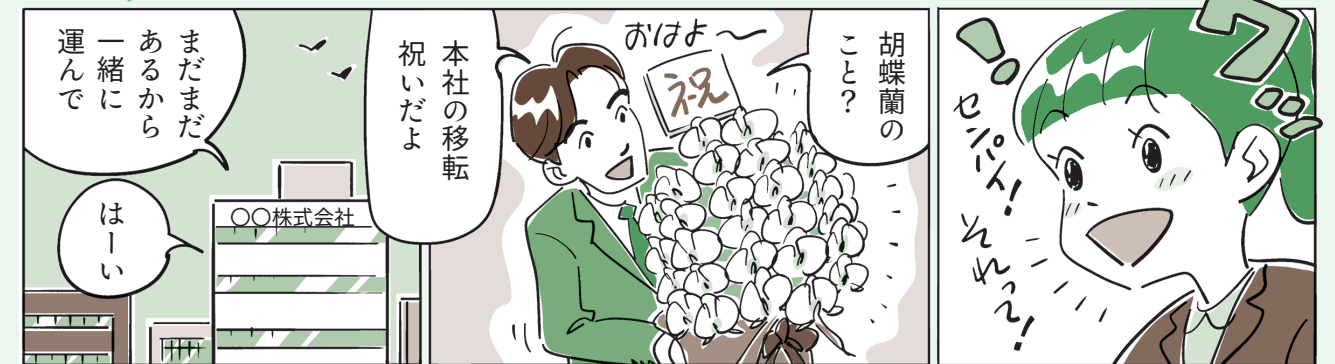
◀「祝花の代わりに植樹へ寄付」詳細は
こちらからお問い合わせください

作ってもらった専用ページで
お祝いをいただいた企業の情報も
一括管理できるんだ！



本社移転が行なわれた〇〇株式会社。

どうやらお祝いに、たくさんのお花が届いているようです…



事例①お客様をお招きして

明治安田生命保険相互会社 様

お客様とご家族をお招きして行なわれた「里山BONSAI」ワークショップ。小さなお子様も多かったのですが、子どもはもちろん大人も土や苗を触ってとっても楽しそうだったのが印象的。5月には「PT 笛吹芦川」にてお客様をお招きしての植樹イベントも決定しているので、次回は森でお会いできるのを楽しみにしています♪



事例②森への入り口

日本コンセントリクス株式会社 様

2024 年秋、プレゼントツリーへのご寄付を検討される中で、まずは森への入口として「里山BONSAI」ワークショップをランチ時間に実施。オンラインで全国をつなぎ、約 100 名の社員さまにご参加いただきました！森への理解を深めたうえで、今年は「PT 笛吹芦川」での植樹イベントも実施、全国から 23 名の社員さまに植樹を体験いただきました。



お家での育て方は
パンフレット参照



自分が環境のために
できることを旗
に書いて、宣言し
てみよう！

③私のエコ活動宣言！



自分が環境のために
できることを旗
に書いて、宣言し
てみよう！

②里山BONSAIへ



自分が環境のために
できることを旗
に書いて、宣言し
てみよう！

①日本の森の話

ワークショップの流れ

里山BONSAI は、プレゼントツリーから生まれた姉妹プロジェクト。

ここ数年では、森の現状を知る第一歩として、親子向けイベントとして、お客様を招待して、里山BONSAI に取り組む企業も増えています。

前半では森の現状を知るセミナー、

後半では実際に手を動かしてBONSAI をつくります。

出来上がったBONSAI は、ぜひご自宅で育ててみてください。



社員で！

家族で！

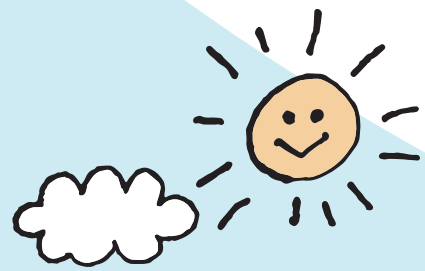
里山BONSAI®

ワークショップを開催しませんか？

みんなでつくろう！



「里山BONSAI ワークショップ」詳細はこちらからお問い合わせください

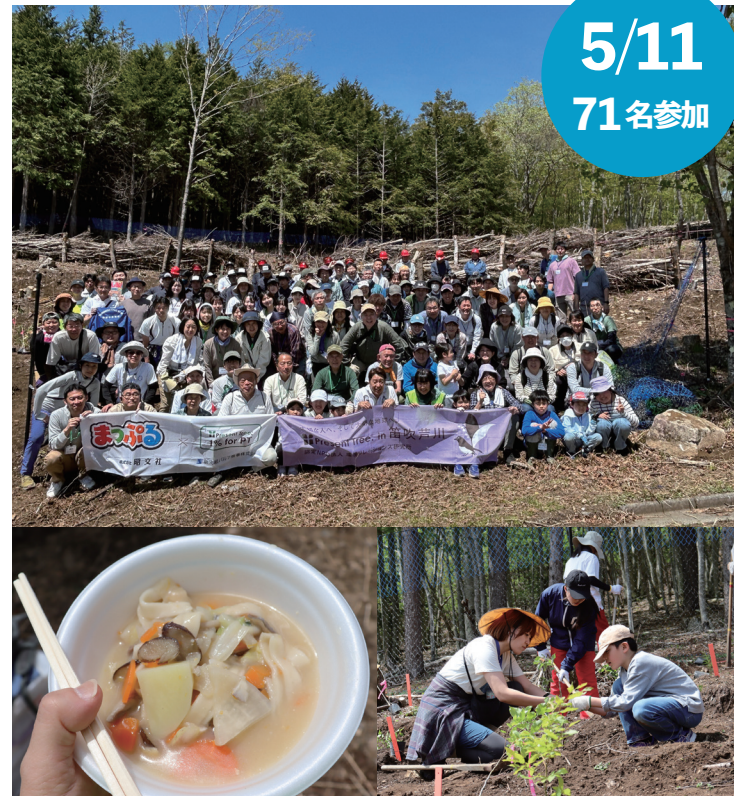
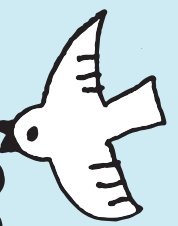


プレゼントツリー主催 植樹イベント2025 4 か所・162 名にご参加いただきました！

美味しい！

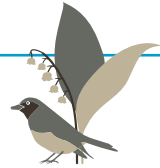
楽しい！

美しい！



5/11
71名参加

PT 笛吹芦川



今年もたくさんの参加者で大賑わい♪
子どもからお年寄りまで楽しめます

毎年多くの里親さんが訪れる「PT 笛吹芦川」での植樹イベントも今回で4回目。地元から笛吹市長をはじめ80名以上がご参加くださり、賑やかな植樹イベント開催となりました！また、今年は新生紙パルプ商事様・昭文社様に協賛いただき、両社からも大勢の社員様にご参加いただきました。高原らしい爽やかな晴れに恵まれ、植樹体験はもちろん「日本すずらんの群生地」見学や、道の駅への立ち寄り、毎年恒例ワイナリーの試飲も好評。道中で4年前に植えた植栽地もご覧いただき、その大きく育った姿に皆様感動されていました。毎年プレゼントツリーの森が増えていく笛吹芦川、ぜひ立派に育った森も見にいらしてほしいです。



4/6
52名参加

PT 湘南国際村めぐりの森Ⅱ

実に14年ぶりの開催！
混植密植方式での植樹はPTではここだけ

実に14年ぶりにプレゼントツリー植樹イベントの舞台となった湘南国際村めぐりの森。多種多様な樹種をギョギョッと密に植える「混植・密植方式」を採用した森は、通常の10倍のスピードで育つため、14年前に植えた森もこんもりと大きく育っていました。湘南国際村は平坦で、クワも使わない植樹方法なので、お子様も存分に楽しめるのも、この植栽地の良いところ。途中雨が降り出してしまいましたが、参加者の皆様のおかげで35種類1000本の樹を植え切ることができました。
東京からバスでも電車でも1時間程度とアクセス良好、企業様の独自イベントの開催場所としてもオススメです。



10/26
14名参加

PT 飛騨高山



こちらは11年ぶりの開催！
手入れされた秋の森が美しい

2011年から植樹を行っている「PT 飛騨高山」。植樹イベントは2014年から開催できていなかったのですが、ついに今年11年ぶりの開催が決定！初日はたくさんの方の観光客に驚きながらも高山市内の見どころ（古い町並み、飛騨家具ショールームなど）をめぐり、2日目に植栽地へ。14年前に植えた森の姿は圧巻で、そこそこで紅葉の始まった広葉樹の美しさに息を呑みました。植樹体験では生憎雨に降られてしまいましたが、皆様のおかげで無事に100本を植え切ることができました。秋の美しい山々と大自然、そして高山グルメも存分に堪能いただけたのではないのでしょうか。ご参加いただいた皆様、本当にお疲れ様でした！



4/13
25名参加

PT くまもと山都



今注目の自然共生サイト認定地域
来年は生き物調査ができるかも...！

5回目となる今年は、南フランスのコスメブランド・ロクシタン様との共催！初日に山都町のグルメや見どころを満喫し、2日目に植樹祭を行いました。風が強く寒い日ではありましたが、山都町長・熊本県副知事をはじめ地元の方々にも出席いただき、美しい里山の風景を見下ろしながら1000本の広葉樹を植えることができました。
2023年に環境省より「自然共生サイト」に認定されている「PTくまもと山都」。田んぼの脇にあるビオトープには、絶滅危惧種の昆虫や水生生物が生息しています。来年の植樹イベントでは、このビオトープで皆さんと生き物調査がしたい！と目下企画中。ぜひお楽しみに...！

スタッフ紹介 & 編集後記

「プレゼントツリー年次報告書 2025」、最後までご覧いただきありがとうございます。

プレゼントツリーは認定 NPO 法人環境リレーションズ研究所が運営しています。

東京・千代田区神田小川町の事務所では、理事長以下スタッフが和気あいあいと仕事をしています。

森はもちろん、ぜひ事務所のほうにも遊びにいらしてくださいね♪

広報／小松 麻理子

2026 年の広報としての目標は、SNS の更新をがんばること 🍌
ぜひフォロー＆いいねをいただくと大変励みになります…！

グループ経営責任者／名倉 誠

プレゼントツリーについては、地球・森にありがとうの気持ちを大切に、日々活動しています。

経理／宮崎 涼香

経理としてプレゼントツリーを支えています。ひとつひとつの想いが集まって、未来の森につながっていくのが楽しみです 🌳

法令対応／沼里 昭

環境法令コンプライアンスのコンサルティングを担当しています。森林などを保護するためには法令順守が重要です。興味がある方は一度ご相談ください。

理事長／鈴木 敦子

お客様窓口／橋本 奈美

森に入ると、草木の匂い、鳥の声をききながら幸せな気分になります 🌿PT の森でお待ちしております！是非一緒に樹を植えましょう 🌳

法人運営事務局長／石塚 仁恵

2025 年 10 月より入社いたしました石塚です。まだまだ分からない事だらけですが、森と一緒に成長出来たらと思っています 🍌

事業運営事務局長／石森 英里

プレゼントツリーは今年で 20 周年を迎えました 🍌これもひとえに皆様の温かいご支援・ご協力のおかげです。今後も事務局メンバーと力を合わせ、「森林再生」と「地域振興」の両立を目指して取り組んでまいります。

←長野でテレワーク中！

プレゼントツリーの SNS をチェック！

プレゼントツリーのイベントや日常の様子を発信しています

注目！



Youtube
@Presenttree



プレゼントツリーのイベント動画がいっぱい！どんな雰囲気なのか気になる方はぜひチェックしてみてください♪



Facebook@presenttree2005



Instagram@presenttree_urbanseedbank



X@PresentTree

各地域の

美味しい！

楽しい！

美しい！

を巡る

プレゼントツリー主催

植樹イベント 2026

一人から気軽に参加できる、プレゼントツリー主催の植樹イベント。

2026 年は全 6 カ所にて開催企画中です。

ご家族やご友人、会社の同僚と…ぜひ奮ってご参加ください♪

開催決定！

2026 年春のイベント

PT くまもと山都



眼下に広がる棚田と茶畑に癒されます。有機農法発祥の地である山都町は美味しいものばかり！グルメ好きにおすすめ♡

募集開始は 1 月下旬予定

PT 笛吹芦川



若葉の季節、芦川の美しい新緑に心が洗われます。森林組合さんお手製の山梨の郷土料理・ほうとうを、ぜひ味わって。

募集開始は 4 月上旬予定

PT 湘南国際村めぐりの森 II



相模湾と富士山を望む好立地！東京から近く坂のない植栽地なので、植樹初心者やお子様連れにもぴったりです♪

募集開始は 4 月下旬予定

日程調整中

2026 年秋のイベント

決まり次第、会員向けメール & LINE にてお知らせします！

まだ登録していない方は、右の QR コードよりメール or LINE のお好きなほうでぜひご登録ください（会員登録は無料です）▶▶▶

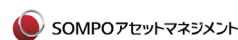
PT 能登金蔵

PT 飛騨高山

PT みやぎ大崎



里親企業一覧

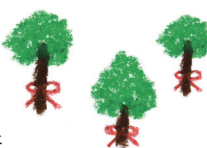


VJA / アクサ・ホールディングス・ジャパン株式会社 / プライム プラネット エナジー & ソリューションズ株式会社 / 株式会社ビューティガレー
ジ / 株式会社福岡銀行 / 株式会社ジェイウッド / 株式会社コスモロール / シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社 / 株式会
社レジデンシャルインターネット / 株式会社 東海テクノ / 株式会社ケイディアイ / 株式会社 NST / 株式会社 山梨中央銀行 / フィリックス株
式会社 / 株式会社富田商店 (エコペイントネットワーク) / セイノースーパーエクスプレス株式会社 / ディー・アンド・エイチ株式会社 / 一般
財団法人 東京マラソン財団 / 泰来株式会社 / 株式会社メニコン / 株式会社ホットフィールド / 株式会社十八親和銀行 / 株式会社ジェーシービー
/ 丸紅木材株式会社 / クロスプラス株式会社 / 三菱 UFJ ニコス株式会社 / 株式会社キヌガワ名古屋 / 株式会社中日新聞社 / タンスのゲン株式会
社 / 東京センチュリー株式会社 / 株式会社ほっとエコライフ関西本店 / P&G ジャパン合同会社 / 株式会社リム・プランニング / 有限会社花心 /
株式会社イムラ / CMA CGM JAPAN 株式会社 / 株式会社ブラボーグループ / ヤフー株式会社 / 株式会社 A・I・C 広島マネジメント / ジュニーパー
ネットワークス株式会社 / 株式会社 TD モバイル / 株式会社 M&A 総研ホールディングス / ソウ・エクスぺリエンス株式会社 / 一富士フーズサー
ビス株式会社 / 株式会社 Nexfort/TerraCycle Japan 合同会社 / 株式会社ニフティカラーズ / 株式会社 豊隆機器サービス / 株式会社 東芝 / ヤ
ブタ塗料株式会社 (エコペイントネットワーク) / サムスン電子ジャパン株式会社 / 株式会社オカムラ / 日商エレクトロニクス株式会社 / 日本
電気株式会社 / 日本ナショナル製罐株式会社 / ダッタヨーガミュージックセンタージャパン / 株式会社ティーガイア / 有限会社三機システム
工業 / アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社 / キヤノン IT ソリューションズ株式会社 / パロアルトネットワークス株式会社 / PwC Japan
合同会社 / 有限会社ココウエスト / A.T. カーニー株式会社 / 株式会社ネオナチュラル / 株式会社ジャックス / 株式会社キヌガワ京都 / 松月産業
株式会社 / エクストリームネットワークス株式会社 / 豊田通商株式会社 / TIS ソリューションリンク株式会社 ほか



大切な人へ、そして大切な地球へ。

Present Tree®



企画・運営：認定 NPO 法人環境リレーションズ研究所
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-3-12 神田小川町ビル 8 階
☎ 03-5283-8143 / ☎ 03-3296-8656 / ✉ ptmail@presenttree.jp

環境リレーションズ研究所は東京都より認定を受けた
「認定 NPO 法人」です (2025 年 7 月認定更新)。
当団体へご寄付いただいた場合、個人・法人を問わず
税の優遇措置が受けられます。
詳しくは公式サイトの「寄付金の税控除について」を
ご覧ください。